





図5 大黒屋光太夫(左)



図6 ラクスマン

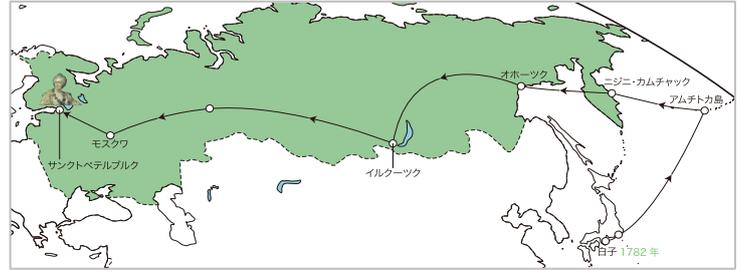


図7 大黒屋光太夫の往路

## ●対外的緊張の高まり

### <対ロシア>

1804年、ロシア使節<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ が、ラクスマンのもち帰った信牌を携え、  
<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ に来航して通商開始を求めた。

→幕府は要求を全て拒んだ上で、信牌を再交付せずに使節を帰航させた。

⇒冷淡な幕府の対応に、ロシア船が報復として択捉島などを攻撃した。



1807年、幕府は<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ 藩と<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_ 蝦夷地(北海道西岸部から南樺太<sup>からふと</sup>)も直轄にし、  
<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_ の支配のもとに置いた(全蝦夷地の直轄地化)。

→東北諸藩には、蝦夷地海岸に大砲を架設する台場を設けさせるなど警護に当たさせた。

⇒1808年、幕府は<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ に樺太を探查させた。

◇(16) …樺太が「島」であること、つまり、対岸との間に間宮海峡(彼の名前に由来)を発見



図8 レザノフ



図9 間宮海峡

### <対イギリス>

1808年、<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_

…イギリス軍艦フェートン号が、敵国オランダの船を捕獲するために長崎を訪れ、

オランダ商館員を人質にして薪水・食糧を強要し、やがて退去した事件

…不法行為を見過ごした長崎奉行松平康英が、事件後に責任をとって自刃

⇒1810年、幕府は白河・会津両藩に江戸湾の防備を命じた。



図10 フェートン号

## ●対ロシアの緊張緩和

1811~1813年、<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_

…1811年、幕府が国後島に上陸したロシア艦長<sup>(19)</sup> \_\_\_\_\_ を監禁し、

1812年、対するロシアが淡路の商人<sup>(20)</sup> \_\_\_\_\_ を抑留した事件

…幕府とロシアは今後の誓約を結び、(27)(28)が釈放されて事件解決

⇒緊張が緩和したため、1821年、幕府は松前藩と東西蝦夷地の直轄を止めた。



図11 ゴローウニンの連行

## ●対外政策の方針決定

ロシアとの緊張緩和後も、幕府は日本近海に出没する異国船に悩み、次の対策を講じた。

①全国各地の海岸線に、大砲を据え付ける砲台である台場を建設

②1825年、<sup>(21)</sup> \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ ) を発令し、

清・朝鮮・琉球王国・オランダの船以外の異国船を無差別に撃退するように指示

③1811年、朝鮮からの使節<sup>(22)</sup> \_\_\_\_\_ の歓迎を、対馬に迎える易地聘礼に変更

◇(21) …発令以前は、衝突回避のために薪水・食糧を供給して帰国させる方針

◇(22) …江戸まで迎えると莫大な費用が掛かり、日本の地理・実情が異国に漏洩する恐れあり